



明日へつなげる岐阜市の自然

自然ふれあい活動支援ワークショップ

第59号 平成20年6月発行

○はじめに

岐阜市には、金華山、長良川をはじめとした誇るべき自然環境が多くあります。その一方、生活環境の変化、生活基盤を支える様々な整備により、貴重な自然環境が減少しているのもまた事実です。

このような状況の中、岐阜市の素晴らしい自然を市民・地域共有の財産として次世代へと引き継ぐため **市民と行政の協働による「自然ふれあい活動」**に取り組みます！！



山県北野地域 三輪中学校 環境学習支援

・山の恵みから火がおこせるか?? (5月16日)

○山の恵みから火がおこせるか??

5月16日(金)から、平成20年度の三輪中学校一年生の総合的な学習における里山整備活動にむけた取り組みが始まりました。

平成17年から里山整備活動に取り組む中で、平成20年度第1回目の活動は、「現代の日本人の生活スタイルが如何に便利なものか!」を実感することからはじめました。

里山の成り立ちや人と自然との共生を考えるきっかけとして、薪を使っていた時代の生活スタイルに思いを馳せてみようとしても、今の生徒たちにはイメージできないだろうという先生の言葉。生まれてからずっと便利な生活しか知らないのでは仕方がない。だったら、昔ながらの火をおこして調理をすることを実感すれば、少しは実感できるのではないかということで、今回は、先輩達が昨年度の里山整備活動で伐り出した薪を使って、調理

今年も総合的な学習で
森林整備活動に取り組みます



人々の生活スタイルは、ここ半世紀で劇的に変化をし便利になりました。

- ・自動車に乗って、自由に遠くまで移動することができます。
- ・夜になっても電灯を使うことで明るく過ごすことができます。
- ・エアコン1つで温度調節ができます。
- ・炊飯器やガスコンロ、IHを使えば簡単に調理ができます。

その他にも色々便利なことが・・・

火を使うことはどうしていたの?

- ・ご飯を炊く
- ・風呂を沸かす
- ・料理をする
- ・部屋を暖める
- ・その他



使うのはこれだけ!

- 太い薪 10本
- 細い薪 10本
- 木の皮 ひとつかみ
- 新聞紙 1枚
- マッチ 3本
- ブロック2つ
- + 火ばさみ + 軍手 + うちわ

日頃の便利な生活を
実感するために、
先輩達が伐採した薪で
火をおこしてみました

をしてみることにしました。

使うことができる材料は本当にごくわずか・・・その材料を使って、火をおこし、火力を調整し、フランクフルトの調理をする。小学校で学んできた技術を総動員すればできるはず、という先生の言葉どおり、一応すべての班で火をおこすことには成功しました。しかしその過程では薪に火をつける難しさを実感しながら、最後の一本のマッチに命運をかけた班もいくつかあったようです。

火をつける、火を調整するだけでも色々苦労する中で、日々の生活で林から薪を伐り出し、調理や暖房などのエネルギーをすべて薪で賄っていた時代の苦労を考えると、今の生活が如何に便利になったのか少しはわかってもらえたのではないのでしょうか。

○おわりに

昔のように、火を使う生活＝里山と関わる生活、ということは、今回の火おこしの実践でそれなりに理解してもらえたようです。そして、今後の学習では、現代の里山と関わる必要のなくなった便利な生活スタイルが、地域の里山にどのような変化をもたらしたのかを確認することとなります。

その上で、今後自分たちが地域の里山をどのようにしていきたいのか、そのために地域の自然とどう付き合っていくのかを考えて、冬からの里山整備活動へと繋がっていきます。

三輪中学校の一年生たちが今後どのように成長していくのか、冬からの里山整備活動が非常に楽しみです。



限られた材料だけで火をおこし、火力の調整をしながら調理ができるか挑戦です。



最後に、体験したことから感じたことをまとめました。生徒達は、これから1学期、2学期の活動で、昔の生活を調べながら、人と自然の関わりを考えていく学習に入ります。

岐阜市自然ふれあい活動に関する問い合わせ

岐阜市 自然共生部 自然環境課 担当：吉村

TEL : 058-265-4141 (内線: 6452) FAX : 058-267-1374

E-mail : shizen@city.gifu.gifu.jp

岐阜市の自然のポータルサイト「ぎふネイチャーネット」:

<http://www.gifu-nature.net/>

自然環境課ホームページ : <http://www.city.gifu.lg.jp/c/12050000/12050000.html>